

令和6年度

島根大学大学院医学系研究科
医科学専攻（修士課程）

学 生 募 集 要 項

入学案内

（第3次募集）

島根大学大学院医学系研究科

目 次

アドミッション・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	1
ディプロマ・ポリシー	2

一般入試・社会人入試（第3次募集）

1 募 集 人 員	3
2 出 願 資 格	3
3 出 願 手 続	4
4 入 試 方 法	6
5 合 格 者 発 表	7
6 入 学 手 続	7
7 入 試 成 績 の 提 供	7
8 長 期 履 修 制 度	8
9 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	9
10 奨 学 金 制 度	9
11 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	9
12 個 人 情 報 の 取 扱 い	9

入学案内

1 目 的	10
2 修 業 年 限	10
3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例	10
4 コースの概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容	10
5 授業科目の講義等の内容及び担当教員	14
6 授業科目、単位数及び履修方法	19
7 履 修 モ デ ル	23
8 修 了 の 要 件	25
9 学 位 授 与	25

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応については
ホームページで情報を確認してください。

入学者受入れの方針 AP(アドミッション・ポリシー)

◆求める学生像（入学前に期待される学修内容）

島根大学が推進する地域基盤型教育と地域課題解決型研究に積極的に参加し、地域再生・活性化に取り組む熱意にあふれ、将来、老年・若年人口対策、医食同源、医療、福祉等の分野での活躍を希望する、医学部医学科出身以外の学生を求めています。

一般入試では地域課題を医科学の視点から研究するための基礎学力及び英語力を備えた学生を求めます。

◆入学者選抜の基本方針（評価方法とその扱い方）

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、次のとおり入学者選抜試験を行い、審査結果を総合的に判断し評価します。

一般入試・社会人入試：（筆記試験（小論文（英語））、口頭試問（面接）、出願書類を総合して評価）
選抜方法と求める力（能力、適性）を対応表にして記載しています。

選抜方法	大学院で学ぶために必要な基礎学力及び専門的な知識	専攻領域での学習及び研究を遂行するための能力や資質	専攻領域に対する明確な志望動機や入学後の研究意欲
筆記試験 （小論文（英語））	○		
口頭試問（面接）		○	○
成績証明書	○		
自己推薦書（論文）			○

教育課程編成・実施の方針 CP(カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程の編成の方針

本課程は、様々な分野における研究・教育、社会事業・企業活動において、医科学の基礎と専門知識を持って活躍できる人材を育成することを目標にしています。そのために、基本となる総合医科学コースに加えて、地域医療支援コーディネータ養成コースなど特色のあるコースを設定し、多様な背景を持つ学生が総合的・学際的な「学」である医科学の視点を身につけ、島根大学が行っている独自の研究・教育の実績を自らのものにすることができるよう教育課程を編成しています。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

- 1) 必修科目群：コースごとに、コースの学修目的に即して、関連する医学、医療、医科学の知識を習得できるよう7～12科目を設定しています。例えば、がん専門薬剤師養成コースでは、「抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学」、地域医療支援コーディネータ養成コースでは「地域医療実習」、医療シミュレータ教育指導者養成コースでは、「シミュレータ教育実習Ⅰ、Ⅱ」などです。特別研究をコースにより4～6単位設定し、目的に応じた研究を遂行させています。
- 2) 選択科目群：学生の多様なニーズに応えられるように、松江キャンパス研究科とも連携開講している「医療のための光工学の基礎」、「機能性物質・食品の応用の基礎」、「臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点」など、医理工農連携プログラムの7科目を含めて、29科目を開設し、学生のニーズに合わせてコースにより、1～6科目を自由に選択できるようにしています。

3. 学修成果の評価方法

- 1) 学修の成果は、シラバスに記載された学習目標、成績評価基準に基づき、試験、レポート等により達成度を評価します。
- 2) 学位論文審査は公開とし、知識・技能を発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

3) 学生の学修成果等をもとに、教育課程を検証します。

＜医学系研究科医科学専攻修士課程学位論文評価基準＞

医学系研究科医科学専攻修士課程における修士論文の審査については、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき以下の基準により評価する。

1 基本要件

修士論文は、「島根大学における研究活動の不正行為の防止に関する規則」に則して適正に行われた研究に基づき作成し、本人以外の論文、研究の独自性やアイデア、著作権、肖像権等を侵害してはならず、十分な学術的価値と高い独創性を有するものであり、かつ次の要件を満たすものでなければならない。

1) 領域性

研究は、特定のテーマに関してそれを客観的かつ正当に評価できる専門家集団が存在する領域のもので、自分の研究がこの領域の中でどう位置づけられるか自覚しなければならない。

2) 公益性

研究は、個人的な問題意識ではなく、上記の研究領域の中で共有される意義があるものでなくてはならない。

3) 論証性

当該研究領域の専門家集団に対して、自分の研究テーマ及び方法論が、公的な研究として意義があるものであると自ら示さなければならない。

2 論文の構成

修士論文は、研究の背景、目的、意義、方法、結果が明確に論述されていなければならない。修士論文研究は、研究の過程で直面した困難にどのように対応し、論理的な結論に到達したかという思考過程を重視するので、そのような思考過程とそれにより得られた結果について記載することが求められる。具体的には次の点において評価する。

1) 研究課題（に関連する研究領域）に関して、科学的重要性・意義、これまでに解明されている事実、などの背景を適切に論述している。

2) 研究課題（に関連する研究領域）に関して、現在どのようなことが問題となっているのか、あるいは、何が解明されていないのかを明確にしている。

3) 上記1)及び2)を踏まえて、本研究では何をどこまで明らかにしようとするのか、明確な研究目的を設定している。

4) 研究目的の達成のために、研究対象および方法を適切に記載し、倫理的配慮がなされている。

5) 修士課程在籍中に得られた関連する研究結果を適切に記載している。基礎的実験データ、ネガティブデータなども記載することを推奨する。

6) 個々の図や表を適切に作成し、そのデータの分析と解釈を正確に記載している。

7) 本研究によって何が明らかになったのかを論理的に論述している。

8) 引用文献が適切に用いられている。

卒業認定・学位授与の方針 DP(ディプロマ・ポリシー)

◆人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、卒業生が身につけるべき資質・能力）

医学部医学科以外出身の者に、総合的・学際的サイエンスとしての医科学の視点を付与し、本学及び地域における独自の研究・教育の実績を、教育・訓練を通じて学生に還元することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野に関わる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材の育成を目的とします。

1. 総合医科学コース

多様な背景を持つ学生に、医科学の視点から教育することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野にかかわる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材を育成します。

2. がん専門薬剤師養成コース

薬剤師免許を有する者（薬剤師免許取得見込みの者を含む。）を対象とし、課程修了後にがん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師の認定申請資格が取得可能な人材を養成します。

3. 地域医療支援コーディネータ養成コース

県及び各市町村において地域の医師定着支援と地域で働く医師・看護師等の支援を業務とする「地域医療支援コーディネータ」を養成します。

4. 医療シミュレータ教育指導者養成コース

医療系大学及び医療機関に設置されたスキルアップセンターやスキルラボにおいて医療シミュレータ教育に従事することや、医療系職種の養成機関において臨床実習前のシミュレータ教育に従事することができる「医療シミュレータ教育指導者」を養成します。

◆目標としての学修成果

本課程に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、以下の能力・資質を習得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（医科学）を授与します。

1. 自己の研究に関連する医科学分野の基礎的知識および専門的知識を習得している。
2. 医科学に対する社会的ニーズを踏まえた学術的意義を有する研究を高い倫理性を備えて遂行できる。
3. 自己の研究成果を日本語または英語により論理的に説明できる。

一般入試・社会人入試

一般入試は出願資格を満たす者すべて、社会人入試は社会人としての実務経験を有する者を対象とした入試制度です。

1 募集人員

医科学専攻修士課程 若干人

2 出願資格

(1) 一般入試

次の各号のいずれかに該当する者とします。

（令和6年3月末日までに該当する見込みの者を含む。）

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑤の2 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学において認定試験を行い、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

【本研究科において、個別の入学資格審査によって、
大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者】

短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校などの教育課程を修了した上で、次のいずれかに該当する者

- 1) 医療・福祉・健康関係の教育・研究施設で教育・研究に携わっている者
- 2) 放送大学などでさらに2年以上の教育を受けた者
- 3) 看護師、保健師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、介護福祉士、管理栄養士、栄養士、救急救命士、消防士、歯科衛生士、歯科技工士等として、3年以上の実務経験のある者
- 4) 学会発表、学術雑誌への掲載の経験（主著者あるいは共著者）のある者
- 5) 英語のレベルが、実用英語検定、TOEFL、TOEICなどで一定以上の実力のある者
- 6) その他、上記の例に相当すると考えられる経歴あるいは実力のある者

（注意）

- ・上記⑧、⑨によって出願しようとする者は、事前に出願資格審査の説明を行いますので、令和6年1月24日（水）までに医学部事務部学務課（出雲キャンパス）に相談してください。
- ・外国の大学を卒業した者は、事前確認を行いますので、令和6年1月24日（水）までに医学部事務部学務課（出雲キャンパス）に相談してください。

(2) 社会人入試

前記（1）の各号のいずれかに該当し、かつ、社会人としての実務経験を有する者

- 医科学専攻には「総合医科学コース」、「がん専門薬剤師養成コース」、「地域医療支援コーディネータ養成コース」、「医療シミュレータ教育指導者養成コース」及び「地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）」があります。
- 「がん専門薬剤師養成コース」に入学を希望する者は、薬剤師の資格を有していること（又は令和6年の薬剤師国家試験に合格すること）が条件となります。
- 「地域医療支援コーディネータ養成コース」に入学を希望する者には、地域の医療福祉を担当する行政職員等を含みます。

3 出願手続

(1) 出願受付期間

令和6年2月5日（月）から2月9日（金）まで。

窓口受付9時から17時まで。

なお、郵送による場合も2月9日（金）必着とします。

(2) 出 願 方 法

出願書類は一括して提出してください。郵送の場合は、必ず本学所定の封筒を用い、特定記録郵便によって提出してください。

なお、出願に際しては、あらかじめ研究指導を希望する担当教員に照会の上、出願してください。担当教員に関することについては、医学部事務部学務課(3)の照会先へ問い合わせてください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
 島根大学医学部事務部学務課大学院担当
 電話 0853-20-2083
 E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

(4) 出願書類等

提出書類	摘 要
① 入学志願票	本要項添付の用紙に記入してください。
② 受験票・写真票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上、写真(上半身、無帽、正面向きとし、出願前3か月以内に撮影したもの)を所定欄に貼付してください。
③ 成績証明書	大学等の成績証明書で、出身大学(学部)等の長が作成し厳封したものとします。
④ 卒業証明書等	大学等の卒業(見込)証明書で、出身大学(学部)長が作成し厳封したものとします。
⑤ 自己推薦書(論文)	① 志望の動機 ② 大学あるいは大学院等で学んだ専門知識の概略(社会人にあっては職業歴に基づいた専門知識の概略) 本要項添付の用紙を使用し、①、②を区別記載(全体で1,600字程度)し、提出してください。ワープロも可とします。
⑥ 入学検定料振込金証明書	入学検定料 30,000 円 ※災害等により入学検定料免除の特例措置を希望される方は、事前に申請が必要となりますので、本学ホームページ(https://www.shimane-u.ac.jp)の「入試情報」→「お知らせ」→「入学検定料免除について」をご確認ください。 令和6年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関(ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。)で、取扱期間中(令和6年1月29日(月)～令和6年2月9日(金))の窓口取扱時間内(15時00分まで)に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。(ATM(現金自動預払機)は使用しないでください。)振込手続後、窓口で返却された「Ⅲ票 振込金証明書(島根大学提出用)」を同封してください。特例措置により検定料免除を許可された場合は、不要です。 なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。 ①出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。 ②入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 ③入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合 上記②及び③については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、令和6年2月19日(月)までに財務部経理・調達課出納担当(電話0852-32-6029)へ連絡(土曜日、日曜日及び12/29～1/3を除く9時から17時までの間)してください。 なお、返還の手続を行う際に「Ⅱ票 振込金受取書(志願者保管)」及び「Ⅲ票 振込金証明書(島根大学提出用)」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。

⑦	返信用封筒 (受験票送付用)	本要項添付の返信用封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、514円分の切手を貼付してください。
⑧	あて名票 (合格通知書送付用)	本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。
⑨	薬剤師免許証の写し (がん専門薬剤師養成コース志願者)	薬剤師免許証の写しをA4サイズに縮小して提出してください。 (薬剤師免許取得見込みの者を除く。)
⑩	在職期間証明書	任意の様式で、在職時の職名、在職期間を証明できる書類を提出してください。
⑪	受験許可書	現在在職中の者は、所属長の受験許可書(様式自由)を必ず提出してください。
⑫	「在留カード」の写し	外国人の志願者は、「在留カード」の写しを提出してください。

(注意)

- ① いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- ② 出願書類に不備がある場合は、受理できません。
- ③ その他不明な点があれば前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等(視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい、その他の障がい等)があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始までに前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」に相談してください。

4 入試方法

(1) 入試方法

入学者選抜は、自己推薦書(論文)、小論文(基礎的な英語の学力を試す問題を含む。)、口頭試問の審査を総合的に判断し判定します。

海外在住のため、試験日に来学し受験することができない者は、小論文、口頭試問をインターネットを利用した双方向音声・画像通信により実施します。

(2) 試験日程及び試験場

試験日程	試験場
令和6年3月4日(月)	島根大学医学部

(3) 試験科目等

試験科目等	試験時間
小論文	13:30~14:30
口頭試問	15:00~

(備考)

- ① 小論文の試験時間において、一般的な語学用辞書(医学専門辞書及び電子辞書は不可)の持込みを許可します。
- ② 口頭試問は、研究指導を希望する分野について行います。
- ③ 口頭試問の期日は、上記を原則としますが、指定した期日に変更する場合があります。

(4) 配点

小論文(英語)	自己推薦書(論文)	口頭試問
100点	優・良・可・不可 の4段階評価	優・良・可・不可 の4段階評価

5 合格者発表

令和6年3月19日(火) 11時

合格者本人には、合格通知書を郵送します。

なお、電話等による合否の照会には応じません。

また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

6 入学手続

合格者は、入学手続期間内に入学手続書類等を持参の上、入学手続を行ってください。詳細については、合格通知書送付の際に連絡します。

(1) 入学手続期間

令和6年3月26日(火) 9時から17時まで

(2) 入学手続場所

島根大学医学部事務部学務課大学院担当(出雲キャンパス)

(3) 入学料及び授業料

- ① 入学料 282,000円(予定額)

【注意事項】

入学手続時までに入学金の改定が行われた場合は、新入学金が適用されます。

- ② 授業料

授業料は、入学後にお支払いただくこととなります。

(1) 授業料の額(前期分)267,900円(後期分)267,900円【年額】535,800円

(2) 授業料のお支払方法

授業料のお支払は、預貯金口座からの「口座振替」を原則としています。

【注意事項】

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

7 入試成績の提供

入試成績を、次のとおり提供します。

(1) 提供内容

学力試験の得点及び総合順位(ランク区分)

(2) 申請期間

令和6年5月7日(火)～5月31日(金)

(3) 申請方法

申請は、医学部事務部学務課大学院担当へ直接来学又は郵送のいずれかの方法で行ってください。

(4) 申請時必要書類

- ① 入試情報提供申請書(次のいずれかの方法により取り寄せてください。)

- ア 島根大学ホームページから印刷して使用してください。
- イ 医学部事務部学務課大学院担当へ直接来学してください。
- ウ 郵送の場合は、返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cmの大きさのものに84円分の切手を貼り，郵便番号，住所，氏名を明記したものを）を同封し，「入試情報提供申請書請求」と明記したメモを添えて申し込んでください。

② 島根大学受験票

③ 返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cm）（郵送の場合のみ）

封筒には，必ず申請者本人の住所，氏名，郵便番号を明記し，簡易書留分の切手（434円分）を貼ってください。

(5) 提供の決定通知

提供申請の結果は，入試情報提供申請書の受理後30日以内に入試情報提供通知書により通知します。

(6) 提供方法

郵送又は申請者（受験者）本人に直接文書を交付することにより提供します。なお，直接来学する場合は，本人であることを証明できる書類の提示が必要です。

(7) 申請及び提供場所

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部事務部学務課大学院担当

電話 0853-20-2083

E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

8 長期履修制度

長期履修制度とは，職業を有している人などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了すること

が困難な人が，修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程の履修を行う制度です。

(1) 長期履修を申請することができる人

① 職業を有している人

② 育児，親族の介護等の特別の事情のある人

(2) 長期履修の期間

長期履修が認められる期間は年単位で，標準の修業年限の2倍の年数を超えることができません。

2年→3年又は4年

(3) 授業料

授業料は，通常の授業料の年額に標準修業年限を乗じた額を長期履修期間の年数で除した額を毎年納入します。

（通常の年額授業料×2年）÷（3年又は4年）＝長期履修の年額授業料

例1）3年の長期履修の場合 535,800円×2年÷3年＝357,200円（年額）

例2）4年の長期履修の場合 535,800円×2年÷4年＝267,900円（年額）

(4) 申請手続

① 申請時期

入学手続期間内

② 提出書類

ア. 長期履修申請書

イ. 在職証明書（職業を有している人）

ウ. その他大学院が必要として求める書類

(5) その他

長期履修を希望される方は、入学手続き時に申し出てください。

相談窓口

島根大学医学部事務部学務課大学院担当

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

電話 0853-20-2083

E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

9 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）によって納入が困難であると認められる者に対して、その全額又は半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度があります。

授業料については、全額又は半額が免除される制度があります。

10 奨学金制度

【日本学生支援機構奨学金】

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由によって修学困難な方には、選考の上、奨学金が貸与されます。

令和5年度貸与月額

- 第一種奨学金（無利子） 50,000円又は88,000円
- 第二種奨学金（有利子）（年3%を上限とする利息付，在学中は無利息）
50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円
の5種類から貸与額を選択

11 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中及び通学中等に傷害を被った場合あるいは、他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で、医学部では学生全員が加入する保険です。

12 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については、次のとおり取り扱います。

出願書類等に記載された個人情報（氏名、生年月日、性別その他の個人情報等）は、入学者選抜及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。

また、同個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/personal_data/personal_data02.html

入学案内

1 目 的

医科学専攻修士課程は、医学部医学科以外出身の者に、総合的・学際的サイエンスとしての医科学の視点を付与し、本学及び地域における独自の研究・教育の実績を、教育・訓練を通じて学生に還元することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野に関わる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材の育成を目的とします。

2 修 業 年 限

修業年限は、2年を標準としますが、職業を有している方などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な場合には、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程を履修することができます。（8頁の8 長期履修制度を参照願います。）

3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例

社会人学生の就学を容易にし、広く社会のニーズに応えるべく、大学院設置基準第14条の規定を活用した「昼夜開講制」を導入しています。

4 コースの概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容

医科学専攻修士課程は、教育・研究領域として次の4コースを開設しています。

1) 総合医科学コース

多様な背景を持つ学生に、医科学の視点から教育することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野にかかわる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材を育成します。

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
藤 田 幸 (発 生 生 物 学)	神経回路の形成と修復のメカニズム
藤 谷 昌 司 (神 経 科 学)	神経新生及び神経回路の正常と異常についての研究
岸 博 子 (環 境 生 理 学)	平滑筋の収縮制御機構、質量分析法による血管異常収縮シグナル分子の同定
桑 子 賢 一 郎 (神 経 ・ 筋 肉 生 理 学)	脳神経回路網の発生制御システムとその異常による神経疾患の研究
宮 城 聡 (代 謝 生 化 学)	幹細胞の制御機構
浦 野 健 (病 態 生 化 学)	染色体ダイナミクスの制御機構、タンパク質の時空間挙動の可視化及びモノクローナル抗体を用いたバイオ医薬品開発
松 崎 有 未 (腫 瘍 生 物 学)	高純度間葉系幹細胞を分離する技術の確立、未分化性維持に関わる特異的機能分子の同定、MSC特異的レポーター遺伝子導入動物の作成と体内動態の解明
和 田 孝 一 郎 (薬 理 学)	生活習慣病の発症メカニズムの解明、および分子薬理学・病態薬理学を基にした新しい疾患治療法の開発

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
新野大介 (病態病理学)	1. 悪性リンパ腫, 白血病など血液疾患の分子病理学的検討 2. 山陰でのHTLV-1ウイルス感染の疫学的検討
(器官病理学教授)	未定
吉山裕規 (微生物学)	ヒト腫瘍の発生に關与するウイルスと細菌の分子生物学的研究、混合感染におけるウイルスと細菌の相互作用と宿主応答変化の研究
原田守 (免疫学)	癌に対する免疫応答と免疫療法に關する研究, 自己免疫・移植免疫・アレルギーの病態と治療に關する研究
竹下治男 (法医学)	ヒト体液中の遺伝マーカーの開発・応用を利用した法医鑑識科学的研究
津本周作 (医療情報学)	医療情報学, 特に医療分野への人工知能, データ工学, 統計学的手法の応用, ラフ集合論, データマイニング, 医療画像処理, 医療設備学(特に通信環境と電気・電磁環境), 医療管理学(医療安全管理, 医療機器の動作安全管理)
金崎啓造 (内科学第一)	糖代謝・内分泌代謝異常が惹起する臓器障害の分子機構解明に關する基礎的・臨床的研究
石原俊治 (内科学第二)	炎症性腸疾患の病態の解明と診断・治療に關する基礎的, 臨床的研究
長井篤 (内科学第三)	細胞再生医療研究, 神経幹細胞の分化・増殖機構に關する研究, アミロイドシスの発症機構と診断に關する研究, 生活習慣病の疫学研究
田邊一明 (内科学第四)	心不全の成因, 病態, 治療に關する研究, 高齢者心臓弁膜症の診断・治療に關する研究, 心臓超音波検査における新技術の応用に關する研究
磯部威 (呼吸器・臨床腫瘍学)	臨床腫瘍学, 呼吸器病学, 抗がん薬ならびに分子標的治療薬の臨床薬理学的検討
鈴木律朗 (血液・腫瘍内科学)	遺伝子およびゲノム解析を通じた血液腫瘍の病態解明とエビデンスに基づいた新規治療法の開発
山崎修 (皮膚科学)	1. メラノーマの複合免疫療法の研究 2. 皮膚細菌感染症における黄色ブドウ球菌毒素の研究
竹谷健 (小児科学)	1. iPS細胞を用いた希少難病疾患の病態解明、創薬研究 2. 間葉系幹細胞などを用いた再生医療研究 3. 小児がんの病態解明
日高匡章 (消化器・総合外科学)	肝胆膵外科・肝移植・再生医療に關する研究
山崎和裕 (循環器外科学)	心筋・血管・臓器保護 心不全に対する外科治療 希少疾患・複数科が関わる症例の治療法 移植時における循環補助の検討
山根正修 (呼吸器外科学)	胸部悪性腫瘍に關する臨床研究、急性肺障害における遺伝子、分子学的メカニズムの研究、肺移植後拒絶反応に關する研究
内尾祐司 (整形外科学)	運動器の損傷と修復及び再生

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
林 健太郎 (脳神経外科学)	血液脳関門、動脈硬化プラークの病態、急性期脳梗塞の画像評価と再開通療法、くも膜下出血後の脳血管攣縮
和田 耕一郎 (泌尿器科学教授)	腎移植、泌尿器腫瘍の診断と治療、泌尿器感染症、尿路結石症
稲垣 正俊 (精神医学)	精神障害の病態解明と新規治療法の開発
京 哲 (産科婦人科学)	婦人科悪性腫瘍の発生分子メカニズムの解明と分子標的治療の開発
坂本 達則 (耳鼻咽喉科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・内耳障害と内耳薬物輸送に関する研究 ・嗅覚障害の病態解明 ・頭蓋底再建後の修復機構
谷戸 正樹 (眼科学)	眼科領域疾患の病態解明・診断治療法開発に関する基礎・臨床研究
楫 靖 (放射線医学教授)	放射線画像解析に関する研究
(麻酔科学教授)	未定
管野 貴浩 (歯科口腔外科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・顎骨および口腔再生治療に関する分子生物学解析 ・口腔機能と口腔ケアによる全身との関連性に関する研究
矢野 彰三 (臨床検査医学)	加齢、糖尿病、慢性腎臓病におけるやせ/肥満・骨代謝異常・血管障害に関する研究
岩下 義明 (救急医学)	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療に関する研究一般、人工呼吸療法、人工肺(ECMO)など重症呼吸不全に関する研究 ・ICUのない病院における重症患者管理の疫学的研究
渡部 広明 (Acute Care Surgery)	重重症外傷および急性腹症患者のdamage control surgeryに関する研究 重症外傷および急性腹症における循環モニタリングに関する研究 重症外傷患者における循環生理学に関する研究
馬庭 壯吉 (リハビリテーション医学)	整形外科疾患のリハビリテーション
長尾 大志 (地域医療教育学)	医学教育カリキュラムの最適化に関する研究 医師国家試験合格率向上のための研究
佐野 千晶 (地域医療支援学)	地域における微生物-ヒト関係のダイナミクス、 高齢者の細菌性慢性炎症成立についての免疫学的メカニズム解明と治療法開発に関する基礎的研究
牧石 徹也 (総合医療学)	地域医療における総合医のあり方及びその育成に関する研究 医療過疎地域における効果的な医療支援システムの研究 医師不足地域でのコミュニティ・ヘルスケア向上に関する研究 医療格差が健康におよぼす影響に関する研究
(手術部)	未定

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
兒玉達夫 (先端がん治療センター)	眼部腫瘍性病変における免疫組織化学的研究, 眼腫瘍診断精度向上に関する研究, 網膜毛細血管機能の生理学的研究
田村研治 (先端がん治療センター)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床腫瘍学 固形悪性腫瘍における分子生物学 がん治療におけるプレシジョンメディシンを促進するゲノム異常の研究
林健太郎 (高度脳卒中センター)	血液脳関門, 動脈硬化プラークの病態, 急性期脳梗塞の画像評価と再開通療法, くも膜下出血後の脳血管攣縮
一瀬邦弘 (膠原病内科)	免疫代謝異常が引き起こす膠原病・リウマチ性疾患の病態解明と診断および治療に関する基礎的、臨床的研究
神田武志 (腎臓内科)	生活習慣、加齢により惹起される慢性腎臓病の基礎的、臨床的研究
中村守彦 (地域医学共同研究部門)	タンパク質の翻訳後修飾による細胞機能調節機構の解明と医・理工連携によるナノメディシン研究
松本健一 (生体情報・RI実験部門)	細胞外マトリックスから細胞内への情報伝達機構の分子細胞生物学的研究, プロテオミクス的手法による病態の網羅的解析

2) がん専門薬剤師養成コース

薬剤師免許を有する者（薬剤師免許取得見込みの者を含む。）を対象とし、課程修了後にがん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師の認定申請資格が取得可能な人材を養成します。

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
直良浩司 (薬剤部)	医療薬学, 臨床薬理学, 薬物動態学, 特に薬物相互作用, 薬物トランスポーター, 漢方薬, 薬物中枢移行, ファーマコゲノミクスに関する研究

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

県及び各市町村において地域の医師定着支援と地域で働く医師・看護師等の支援を業務とする「地域医療支援コーディネータ」を養成します。

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
未定	未定

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

医療系大学及び医療機関に設置されたスキルアップセンターやスキルラボにおいて医療シミュレータ教育に従事することや、医療系職種の養成機関において臨床実習前のシミュレータ教育に従事することができる「医療シミュレータ教育指導者」を養成します。

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
長尾大志 (地域医療教育学)	医学教育カリキュラムの最適化に関する研究 医師国家試験合格率向上のための研究

5 授業科目の講義等の内容及び担当教員：令和5年度

授業科目名	講義等の内容	担当教員
生命科学概論	医科学の基礎をなす生命科学の成り立ち, 方法論, 今後の展開の可能性などについて学びます。また, 研究の方法, 発表・論文作成における戦略についても学びます。	宮 城 聡 桑 子 賢一郎
人体形態学	人体の構造を分子、細胞、組織、器官、個体の各レベルで階層的に学ぶとともに、その放射線解剖学や発生学、ならびに神経解剖学について理解を深めます。	藤 谷 昌 司 藤 田 幸
人体機能学	人体の生理的機能を分子、細胞レベルの生化学・分子生物学から、組織・器官・個体レベルの高次の統合機能まで系統的・階層的に理解できるように学びます。	宮 城 聡 桑 子 賢一郎 松 崎 健太郎
病理病態学	疾病を代表的なカテゴリーに分け、それぞれについて分子・細胞レベルから組織・器官・個体レベルまで階層的かつ統合的に理解できるように学びます。	吉 山 裕 規 原 田 守 磯 村 実 飯 笹 久 荒 木 亜寿香 小 谷 仁 司 大 原 浩 貴
社会医学	人類の健康に関する環境要因や法制・法科学, 並びに疾病予防の概要を学びます。	竹 下 治 男 岩 下 義 明 木 村 かおり
医の倫理学	生と死に関わる倫理的問題, 医療と医学研究における倫理の重要性, 医療・福祉における安全性, 保健医療従事者と利用者間における援助関係などについて学びます。	竹 下 治 男 稲 垣 正 俊 稲 垣 卓 司
臨床医学概論	人体を対象とする経験科学たる臨床医学の基本理念, 方法論について学ぶとともに, 臨床研究を進めるに際しての科学的方法論の原理を学びます。	石 原 俊 治 金 崎 啓 一 田 邊 一 竹 谷 健
病態生理に基づいた薬物治療学	様々な病気のメカニズムを説き明かし, それぞれに適合した合理的な薬の使い方の原理を学びます。「アートとしての治療」から「サイエンスとしての治療学」へと発展させる考え方を学びます。実験室データのみに基づく観念論的薬理学ではなく, 「臨床における事実」に立脚した「サイエンス」としての治療学を理解させるための薬理学を学びます。	和 田 孝 一 郎 梅 村 和 夫 岡 本 貴 行 安 西 尚 彦 臼 田 春 樹
腫瘍の発生・増殖とその制御	細胞の発生・分化・増殖に関する基礎科学から腫瘍細胞発生の分子機序, 細胞周期の調節異常, 細胞分化と増殖の人為的統御について学びます。	田 村 研 治 浦 野 裕 規 吉 山 裕 哲 京 木 律 朗 鈴 木 笹 久 飯 尾 林 栄 治 尾 平 原 典 幸 高 橋 勉
抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	化学療法薬、分子標的治療薬など抗悪性腫瘍薬の吸収、分布、代謝、排泄について学びます。さらに、これらの体内動態の変動要因について考察し、がん薬物治療の個別化への応用を学びます。	直 良 浩 司 磯 部 威 矢 野 貴 久 津 端 由佳里

<p>医 科 学 演 習</p>	<p>(1)各研究室で定例的な演習を行い、以下のような医科学研究の遂行に必要な基本技能を学びます。英語論文の批判的読解能力、実験仮説を組み立てる能力、口頭発表・討論の能力、論文作成能力を獲得します。 (2)半期に1回、修士課程全体で発表・討論の演習を行います。修士課程の全学生と全教員が一堂に会して各自の研究目的、研究方法論、研究進捗状況、反省点や今後の課題などについて徹底的に議論し、修士論文作成に向けて実践的に学びます。 (3)がん専門薬剤師養成コースにおいては、1年次がん専門薬剤師養成のための臨床研修（3ヶ月間）を履修し、臨床症例から設定した課題研究及びその報告を(1)及び(2)の一部に含めて実践します。</p>	<p>各学生の所属する研究室の担当教員</p>
<p>医 科 学 特 別 研 究</p>	<p>各学生が所属する研究室で実験を軸とした演習を行います。実験技術に関する実技教育も含むので、実習でもあります。前記の医科学演習とも連携して、実験仮説の組み立て、仮説の実証に至る実験方略、データ収集法、仮説検証過程の自己検証、論文化の方略と技術を実践的に学び、修士論文を作成します。</p>	<p>各学生の所属する研究室の担当教員</p>
<p>地 域 医 療 学</p>	<p>地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関及び福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開し、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問です。本講義では、地域医療学の現状をとらえつつ、従来からのアプローチから先端的な研究までを網羅し、それが今後どのように地域医療として展開していくかということ学びます。</p>	<p>佐野千晶 牧石徹也 岩下義明 山田法顕</p>
<p>医 療 社 会 学</p>	<p>地域医療支援ネットワークを構築するために必要な医療経済・政策学、医療保健行政学、医療安全管理学、労働安全衛生学、環境管理学について学びます。</p>	<p>佐野千晶 伊藤孝史 山崎雅之 狩野賢二</p>
<p>シミュレータ教育実習Ⅰ</p>	<p>学内外におけるシミュレータを用いた実習及び地域医療に関する実習を計6週間行います。シミュレータを用いた実習では、シミュレータ機器についての知識とシミュレータ機器使用についての技術を獲得するとともに、医学科のOSCE実習に教員の補助として参加し、シミュレータ教育の実際について学びます。また地域の医療現場で実習を行うことにより、地域の臨床教育病院におけるシミュレータ教育のあり方について学びます。</p>	<p>岩下義明 牧石徹也 山田法顕</p>
<p>シミュレータ教育実習Ⅱ</p>	<p>シミュレータ教育実習Ⅰで学んだことをもとに、さらに本学や地域臨床教育病院においてシミュレータを用いた教育実習を6週間行います。本実習では、シミュレータを用いた教育に必要なプログラムの作成方法や評価方法の修得に努めるとともに、地域の医療技術向上(大学と地域臨床教育病院との稼働、シミュレータ教育の均てん化)のための方策について学びます。</p>	<p>岩下義明 牧石徹也 山田法顕</p>
<p>シミュレータ教育特別研究</p>	<p>シミュレータ教育について修士論文を作成します。又は修士論文に代えてシミュレータ教育実習Ⅰおよびシミュレータ教育実習Ⅱにおいて学んだこと等の特定の課題について研究の成果報告を作成します。</p>	<p>岩下義明</p>
<p>老 年 医 学</p>	<p>生活習慣病等による老年期における神経系、内臓系、運動器系等の機能障害の病態生理と予防、治療、高齢者の健康福祉システム等について学びます。</p>	<p>長井篤 矢野彰 三</p>

リハビリテーション 医 学	各種機能障害に対するリハビリテーションの理論と実際を学びます。また、リハビリテーション関連の専門知識を義肢等装具の製作所現場訪問を含めて学習します。	内 尾 祐 司 馬 庭 壯 吉
胎児・生殖医学	ヒトの個体発生の概要, 特に組織が形成され生後につながる臓器機能が発達してくる胎児期後半における成長の発生過程と異常について, 診断と治療の概略, 催奇形物質など環境因子の作用を含めて学びます。更に, 生殖医学の最新情報について学びます。(不開講)	調 整 中
再生医学・組織工学	胚性幹細胞, 各種の組織幹細胞の意義と, これらを用いた再生医学, 組織工学の実験的研究と臨床応用について最新情報を学びます。	内 尾 祐 司 松 崎 有 未 谷 戸 正 樹 宮 城 聡
医食同源の科学	まず食品・栄養と生体内代謝機構との関係を理解します。その上で, 中薬等による自己免疫疾患・老化関連疾患の治療, 生活習慣病の予防に関する食品因子の作用, 新規の食糧・栄養資源の探索と応用, 健康・機能性食品の開発等について最先端の研究内容を学びます。	中 村 守 彦 原 田 守 司 小 谷 仁
医療情報学	医療情報を収集・解析・管理・応用する方法について学びます。特に, 人工知能(機械学習)・データマイニング・統計学による意思決定支援・品質管理を中心に, 医療におけるデータ解析について学びます。	津 本 周 作 河 村 敏 彦
精神神経科学	現代において増加しつつある多様な「心の問題」に対し, その解明を図るためにより科学的なアプローチを目指します。精神医学や神経心理学, 健康医学理論の立場からの研究の概説を行い, 具体的な問題にアプローチ出来るように学びます。	稲 垣 正 俊 稲 垣 卓 司
生活環境と健康の科学	健康に影響する生活環境要因に関して, その背景や病態, 疾病対策などを学びます。疫学研究, 遺伝的要因の解析, 予防医学について学びます。	田 村 太 朗 山 崎 雅 之 松 崎 健太郎
環境生理学	様々な環境要因(外乱)が生体に負荷された際の, 自律神経系, 循環器系, 内分泌器等の応答によるホメオスタシス維持機構について学びます。さらに, 外乱に対する適応の様式を, 温度刺激, 循環負荷, 酸化ストレスを例にとり個体レベルから分子レベルに至るまで幅広く学びます。	松 崎 健太郎
免疫学 (生体防御システム学)	生体防御機構を分子・細胞レベルから個体レベルの高次統合システムまで階層的に学びます。特に, 自然免疫系と獲得免疫系との相互関連にも注目して新たな概念を理解します。	吉 山 裕 規 原 田 守 修 山 崎 野 千 晶 佐 原 俊 治 石 飯 笹 久 子 千 貫 祐 子 小 谷 仁 司
生体情報伝達学	多種多様な細胞が高次に統合されたシステムとしての人体, その高度なシステム調節の基盤である細胞間及び細胞内の情報伝達機構を, 分子・細胞・組織レベルで学びます。	松 本 健 一 中 村 守 彦 兒 玉 達 夫 金 崎 春 彦 桑 子 賢一郎

<p>持続性科学と SDGs</p>	<p>持続的社會構築に向けた持続性科学や SDGs に関する基礎的な知識や考え方を取得し、俯瞰的な視野を涵養します。</p>	<p>原竹吉 田谷山 守健規 関山 裕耕文 平紀明 齊藤月 俊文 拓基仁 入飯田 一 岳 赤本山 本山 GYUYEN Thu Lan 増田 浩次 宮本 光貴 千代章一郎 松本 一 郎</p>
<p>* 医療のための 光工学の基礎</p>	<p>近年、光エレクトロニクス、コンピュータ、ナノテクノロジーなどの著しい進歩が、光を使った医療診断や治療技術に変革をもたらし、医療分野における様々な新しい応用が注目されています。光工学の生命科学の様々な分野への応用に使われている方法や技術について、その原理の基礎を学び、その理解を深めます。</p>	<p>長石谷中柴藤増松山 井原村垣田田崎本 篤治樹彦 俊正守 太郎 太広恭久 浩次 達貴之</p>
<p>* 機能性物質・食品 の応用の基礎</p>	<p>医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきたし今後も貢献するものと期待されています。理工農学専門家の立場から、生体内において多彩な機能を発揮する物質の応用について基礎から学びます。</p>	<p>原和吉岡青小曰飯半田西垣室中川桑 田山本井谷田田田中内田務向原 守一郎 孝裕貴典仁春雄 一真和寛子明誠之 秀 佳恵</p>
<p>* 臨床・社会・環境医学 と高度情報学・数学の 接点</p>	<p>高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究手法、医療サービス設計などを理解する。</p>	<p>長田山岩磯津廣縄宮黒 井村崎下村本富手崎岩 篤朗之明実作也彦亮史 太雅義 周哲雅 大</p>

<p>* 理工医学のための生物材料学及び放射線の基礎</p>	<p>理工医学のための生物材料学では医学・医療の場で用いられる生物材料に関する基礎知識と一般的な研究方法、研究の現状などについて、講義・セミナー等で主に実際の研究事例を通して学ぶ。また、基礎・臨床医学応用例についても、生化学、法医学、皮膚科学、眼科学、歯科口腔外科学、整形外科学領域についての特論をオムニバス形式で学ぶ。 また、放射線については、医学と物理学の接点について、さらには水中の同位元素と環境との関わりについて講義を行う。</p>	<p>浦野 健 竹下 正 谷戸 祐 内尾 達 兒玉 貴 管野 幸 山崎 幸 楯置 定 玉杵 一 白藤 容 加井 良 笹井 光 廣田 瓶 山三 三 三 瓶 良 和</p>
<p>* 発明の権利化と社会貢献</p>	<p>研究から生まれる発明の権利化と知的財産に関する基礎知識を講義・セミナー等において習得し、医工連携の研究事例や産学連携による新産業創出およびマーケティングについての特論をオムニバス形式で学びます。</p>	<p>中 村 守 彦</p>

備考 医理工農連携プログラム開設について

最近の医学医療の進歩は著しく、特に材料のみならず理工学の主要技術が医学医療に広く応用されています。このような観点より、本研究科におきましては医療技術・医療機器開発等を行う上で必要な医学に関する知識や、最新医療を支える医療技術・医療用機器に関する原理や基礎知識を修得するために、平成20年度より総合理工学研究科と連携した「医・理工連携プログラム」を開設しました。さらに平成21年度より、本学の特徴的な研究分野である「水」を含む資源循環型社会の構築に関する研究の視点を加えるため、生物資源科学研究科を含む新たな教員の参加を得て、「医理工農連携プログラム」として内容を強化しました。

医理工農連携プログラムの授業科目は上記表の*印の授業科目です。

6 授業科目、単位数及び履修方法

1) 総合医科学コース

区分	授 業 科 目	授業を行う年次	単位数
必修科目	生命科学概論	1	1
	人体形態学	1	2
	人体機能学	1	2
	病理態学	1	2
	社会医学	1	2
	医倫理学	1	2
	臨床医学概論	1	2
	医科学特別演習	1・2	3
	医科学特別研究	1・2	6
選択科目	老年医学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学（生体防御システム学）	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	地域医療学	1・2	2
	医療社会学	1・2	2
	持続性科学とSDGs	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 臨床・社会・環境医学と高度情報学・数学の接点	1・2	2
* 理工医学のための生物材料学及び放射線の基礎	1・2	2	
* 発明の権利化と社会貢献	1・2	2	
研究と倫理	1・2	1	
学際プレゼンテーション入門	1・2	1	
研究力とキャリアデザイン	1・2	1	
大学院連携科目			

(備考) 全授業科目のうち、必修科目22単位及び選択科目から4科目以上で8単位以上計30単位以上を修得する。*印は医理工農連携プログラム開設科目

2) がん専門薬剤師養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単位数
必修科目	生命科学概論	1	1
	人体形態学	1	2
	人体機能学	1	2
	病理病態学	1	2
	社会医学	1	2
	医倫理学	1	2
	臨床医学概論	1	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1	2
	医科学演習	1・2	3
	医科学特別研究	1・2	6
	選択科目	老年医学	1・2
リハビリテーション医学		1・2	2
先天代謝異常学・臨床遺伝学		1・2	2
胎児・生殖医学		1・2	2
発生工学・実験動物学		1・2	2
再生医学・組織工学		1・2	2
医食同源の科学		1・2	2
母子保健・教育		1・2	2
医療情報学		1・2	2
精神神経科学		1・2	2
生活環境と健康の科学		1・2	2
環境生理学		1・2	2
免疫学（生体防御システム学）		1・2	2
生体情報伝達学		1・2	2
地域医療学		1・2	2
医療社会学		1・2	2
持続性科学とSDGs		1・2	2
* 医療のための光工学の基礎		1・2	2
* 機能性物質・食品の応用の基礎		1・2	2
* 臨床・社会・環境医学と高度情報学・数学の接点		1・2	2
* 理工医学のための生物材料学及び放射線の基礎		1・2	2
* 発明の権利化と社会貢献		1・2	2
研究と倫理		1・2	1
学際プレゼンテーション入門	1・2	1	
研究力とキャリアデザイン	1・2	1	
大学院連携科目	1・2		
<p>(備考) 全授業科目のうち、必修科目28単位及び選択科目から1科目以上で2単位以上計30単位以上を修得する。*印は医理工農連携プログラム開設科目</p>			

※1年次には本学医学部附属病院において所定の研修プログラムに基づいた「がん専門薬剤師養成研修（3ヶ月間）」を履修します。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単位数
必修科目	生命科学概論	1・2	1
	臨床医学概論	1・2	2
	地域医療学	1・2	2
	医療社会学	1・2	2
	地域医療実習Ⅰ	1・2	4
	地域医療実習Ⅱ	1・2	4
	地域医療学特別研究	1・2	5
選択科目	人体形態学	1・2	2
	人体機能学	1・2	2
	病理病態学	1・2	2
	社会医学	1・2	2
	医の倫理学	1・2	2
	老年医学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学（生体防御システム学）	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	持続性科学とSDGs	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 臨床・社会・環境医学と高度情報学・数学の接点	1・2	2
	* 理工医学のための生物材料学及び放射線の基礎	1・2	2
	* 発明の権利化と社会貢献	1・2	2
研究と倫理	1・2	1	
学際プレゼンテーション入門	1・2	1	
研究力とキャリアデザイン	1・2	1	
大学院連携科目			

(備考) 全授業科目のうち、必修科目20単位及び選択科目から5科目以上で10単位以上計30単位以上を修得する。*印は医理工農連携プログラム開設科目

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単位数
必修科目	生命科学概論	1・2	1
	臨床医学概論	1・2	2
	地域医療学	1・2	2
	医療社会学	1・2	2
	シミュレータ教育実習Ⅰ	1・2	6
	シミュレータ教育実習Ⅱ	1・2	6
	シミュレータ教育特別研究	1・2	5
選択科目	人体形態学	1・2	2
	人体機能学	1・2	2
	病理病態学	1・2	2
	社会医学	1・2	2
	医の倫理学	1・2	2
	老年医学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学（生体防御システム学）	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	持続性科学とSDGs	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 臨床・社会・環境医学と高度情報学・数学の接点	1・2	2
	* 理工医学のための生物材料学及び放射線の基礎	1・2	2
* 発明の権利化と社会貢献	1・2	2	
研究と倫理	1・2	1	
学際プレゼンテーション入門	1・2	1	
研究力とキャリアデザイン	1・2	1	
大学院連携科目	1・2	1	

(備考) 全授業科目のうち、必修科目24単位及び選択科目から3科目以上で6単位以上計30単位以上を修得する。*印は医理工農連携プログラム開設科目

7 履修モデル

医科学専攻学生の履修モデルは次のとおりです。

(1) 総合医科学コース

(A) 老年人口対策のうちリハビリテーションに特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：高齢者用装具の運動機能障害の原因と程度に応じた調節に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	老年医学 リハビリテーション医学 再生医学・組織工学 生活環境と健康の科学	2 2 2 2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
小計		22	小計	8
履修単位合計		30単位		

(B) 若年人口対策のうち先天代謝異常の早期診断に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：有機酸代謝異常スクリーニング法の改良に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	先天代謝異常学・臨床遺伝学 胎児・生殖医学 生体情報伝達学 機能性物質・食品の応用の基礎	2 2 2 2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
小計		22	小計	8
履修単位合計		30単位		

(C) 医食同源分野のうち新規機能性食品の開発に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：桑を用いた新規抗酸化食品の開発に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	発生工学・実験動物学 医食同源の科学 生体情報伝達学 病態生理に基づいた薬物治療学	2 2 2 2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
小計		22	小計	8
履修単位合計		30単位		

(D) 若年人口対策のうち精神・心理的側面に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：小児入院患者における精神・心理発達の支援法に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	胎児・生殖医学 母子保健・教育 精神神経科学 環境生理学	2 2 2 2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(2) がん専門薬剤師養成コース

がん専門薬剤師養成コースを履修し、修了後、がん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師認定を受けようとする学生・社会人

研究テーマ：がん化学療法における薬学的管理の最適化に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	免疫学（生体防御システム学）	2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
	病態生理に基づいた薬物治療学	2		
	腫瘍の発生・増殖とその制御	2		
抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	2			
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
	小計	28	小計	2
履修単位合計	30単位			

(3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

県、又は市町村等の健康福祉部門に勤務し、地域医療関係の仕事に従事する社会人

研究テーマ：へき地への医師定着を支援する行政職の役割に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	医の倫理学 老年医学 医療情報学 生活環境と健康の科学 精神神経科学	2 2 2 2 2
	臨床医学概論	2		
	地域医療学	2		
	医療社会学	2		
	地域医療実習Ⅰ	4		
1・2年次	地域医療実習Ⅱ	4		
	地域医療学特別研究	5		
	小計	20	小計	10
履修単位合計	30単位			

(4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

医療系職種の養成機関において臨床実習前のシミュレータ教育に従事する社会人
研究テーマ：救急蘇生訓練用シミュレータの効果的な教育方法に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	人体形態学 人体機能学 医の倫理学	2
	臨床医学概論	2		2
	地域医療学	2		2
	医療社会学	2		
	シミュレータ教育実習Ⅰ	6		
1・2年次	シミュレータ教育実習Ⅱ	6		
	シミュレータ教育特別研究	5		
	小計	24	小計	6
履修単位合計	30単位			

8 修了の要件

1) 総合医科学コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目22単位、選択科目8単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

2) がん専門薬剤師養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目28単位、選択科目2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目20単位、選択科目10単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

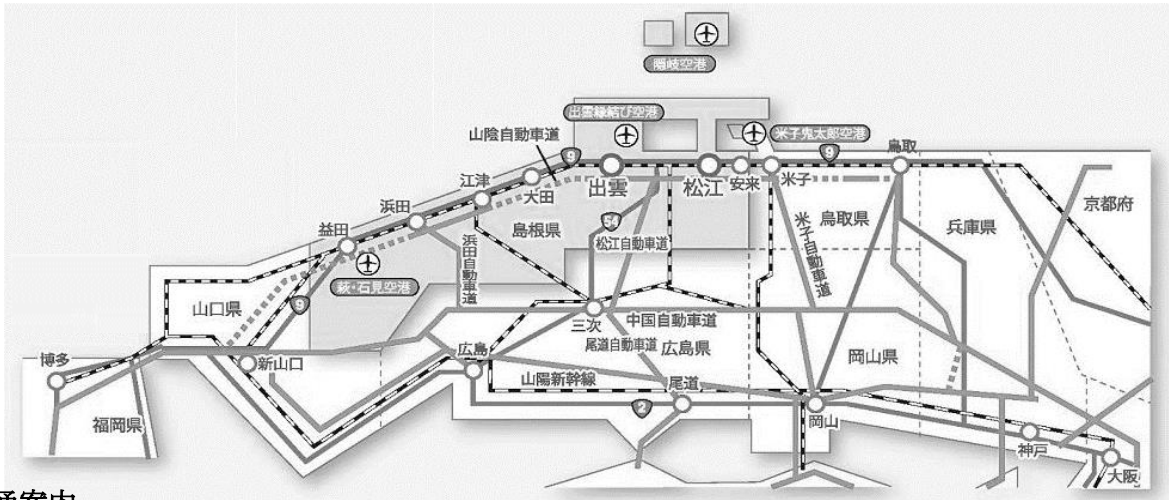
修士課程に2年間在籍し、必修科目24単位、選択科目6単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

※ 医理工農連携プログラム（18頁を参照ください。）の科目は、上記1)、2)、3)及び4)のいずれのコースに属する学生も上記要件の範囲で履修できます。

9 学位授与

学位は、修士（医科学）です。

位置図



交通案内

出雲キャンパス	空路	東京(羽田) → 出雲 ……約1時間20分	JR出雲市駅より 一畑バス 出雲市駅・上塩冶車庫行 島根大学病院下車 ……約10分 出雲須佐行 島根大学病院下車(2番のりば) ……約10分 ※須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。 徒歩 JR出雲市駅南口から徒歩25分
		名古屋(小牧) → 出雲 ……約1時間	
		大阪(伊丹) → 出雲 ……約1時間	
		福岡 → 出雲 ……約1時間5分	
	※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分) JR出雲市駅下車		
	JR	東京 → 岡山 → 出雲市 ……約6時間30分	
		大阪 → 岡山 → 出雲市 ……約3時間50分	
		岡山 → 出雲市 ……約3時間	
		福岡 → 岡山 → 出雲市 ……約4時間50分	
	高速バス	東京(渋谷) → 出雲 ……約11時間20分	
		名古屋 → 出雲 ……約10時間	
		大阪(梅田) → 出雲 ……約5時間35分	
		京都 → 出雲 ……約5時間50分	
		神戸(三宮) → 出雲 ……約5時間20分	
		岡山 → 出雲 ……約4時間	
		広島 → 出雲 ……約3時間	
		福岡 → 出雲 ……約9時間	



※出雲キャンパスは、松江市内からは1時間以上要しますので、宿泊される場合は出雲市内の宿泊施設を利用してください。

建物配置図

